

# 身体教育学（身体運動文化論） における理論研究と教材開発

最終更新日：2015年8月24日

保健体育講座  
教授  
榊原 浩晃

## キーワード

・体育授業 ・体育理論 ・知識・理解 ・教材開発

## 研究シーズの説明（私は、このような研究に取り組んでいます。）

教員養成大学・学部での保健体育の専門教育の一端として、身体教育学の理論と実践について体育やスポーツの歴史や哲学から学びとり、実践に応用することを学生たちに授業で教えています。九州を拠点にしたアジア地域における体育・スポーツ史・スポーツ文化の研究に関して新しい研究の着想を描きながら、新規に収集した資料やオリジナルな自作教材を作成して、それらを体育授業（体育実技や体育理論）に活用します。

私の研究テーマは身体教育学の中で、身体運動文化論分野の理論研究です。日本国内の大学に在籍しながら、外国（特に西欧）における体育授業や課外活動の歴史と現状を研究し、そのことが将来の日本の体育授業やスポーツのあり方をめぐって斬新な着想を見いだすことについて考えています。研究の一例として、近代ドイツの体育授業発祥地エアフルト近郊のシュネッペンタールにあるグーツムーツ（世界で最初の体育教師）の記念館や汎愛学校（1780年代から継承されている学校）を訪問し、初期の体操器械やそれらを活用した運動について研究しています。

グーツムーツが1790年代に実践した体育授業教材は、現在の日本の小学校体育教材の観点では、まさに「体づくり運動」でした。右の図はその頃のものですが、10m以上ある丸太の平均台を生徒たちが移動します。両端から1人ずつの生徒が移動し平均台の真ん中で2人組になり、平均台から落ちないようにくっつき入れ替わるのです。2人の生徒の重心が限りなく平均台上にないとバランスを崩してしまいます。2人でゆっくりと息を合わせながら運動します。当時の運動を再現して現在の体育授業で活用できる教材開発を手がけています。



グーツムーツ(1817)『祖国の子弟たちのための体操』より

## 成果の応用可能性（私の活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

小学校体育科の評価規準には、知識・理解の観点はありますが、教材に対する関心を持たせ、思考・判断のもとになる発想やヒントは先生方が児童に提示してあげることが大切です。私の研究成果の応用可能性は、こうした点にあります。また、中学校・高等学校保健体育科には「体育理論」の領域が課せられています。体育理論の学習のための教材・素材を提供することも、研究成果の応用可能性につながるものと考えています。運動やスポーツの個別種目の文化内容や歴史的観点は、実技の指導にも活用可能です。サッカーのオフサイド（ルール）はどのような文化的歴史的背景が存在するのかを先生方が教材研究の観点で理解されたとき、実技指導でオフサイドがなぜルール違反になるのかの意味を教えることができるのです。このように歴史的・文化的理論の学習は、実技の指導を深化していくことに役立ちます。

私の研究成果は、小学校体育科及び中学校・高等学校保健体育科の研究会や教材検討会などで、先生方によって試行錯誤の後、活用していただき、実践につなげていただくことができます。学校単位であれば、開発した教材を学年ごとに別のクラスでいろいろと実践してみてください。生徒たちの興味や関心の度合いは様々ですが、その結果を持ち寄って教材としての価値を先生方で評価してみてください。小学校体育科や中学校・高等学校の保健体育科の指導経験に応じた教員研修にとっても、それらを活用していくことができると思います。

## これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

### 【これまでの連携研究】

・榊原浩晃、伊藤エミ（春日市立白水小学校）他、「体づくり運動教材としての平均台運動の指導法序説—グーツムーツの平均台運動に関する教科内容学術研究—」福岡教育大学紀要 第6分冊 教育実践研究編 平成25年度

### 【その他の社会貢献活動等】

- ・福岡県体育研究所 平成22年度専門研修「体育理論：スポーツ文化、スポーツの歴史はこう教える」平成22年度
- ・出前授業（県内高校）：教育系大学における教科専門（「体育・スポーツ史」）の導入と授業の1シーン 平成25年度
- ・ふっくTV ふくおかをカンガエル〜「運動会の“ヤー！”のナゾ」 NHK福岡放送局 TV出演での説明並びに資料提供の協力 平成26年度
- ・朝日新聞社福岡版紙面「運動会・騎馬戦 なぜ川中島？」朝日新聞紙面への情報提供の協力 平成26年度
- ・教員免許状更新講習（選択講習）「スポーツ文化、スポーツの歴史を深める—体育授業の歴史や欧米スポーツの比較文化史にも関連づけて—」平成25年度～27年度